令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【つばさ小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	国語（漢字や語彙）、社会、算数（基本的な計算）、理科、G・Sについて、学期ごとのまとめテストにおいて、学級平均8割以上の正答率となるよう定着させる。学習状況調査等で、前の学年の学習内容について問う問題の正答率を向上させる。	⇒	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。レディネステストや振り返りテスト等、児童の実態把握に努め、個に応じた支援を施す。学習の系統性をもたせた指導の一層の推進を図る。
思考・判断・表現	国語、社会、算数、理科、G・Sにおいて、学期ごとのまとめテストでの「思考・判断・表現」項目を学級平均8割以上の正答率となるよう定着させる。学習状況調査等で、資料に基づいて考えたり、資料を活用して表現したりする内容の問題の正答率を向上させる。	⇒	教科等を通して、「書く」「伝え合う」活動を協働的に行える授業づくりを推進する。タブレット端末を活用するなどして、自分の考え等を提案したり、共有したりする活動を日常的に授業の中で行う。各教科等において、資料を活用して考えたり表現したりすることに重点を置いて指導する。
主体的に学習に取り組む態度	各教科において児童の「勉強が好き」という意識を醸成し、学習状況調査等における各教科の勉強が好きかを問う項目の肯定的な回答を、教科ごとの学校平均値で昨年度比5ポイント向上させる。	⇒	「学びのポイント」（じ・しゃ・ク）を活用した授業実践を推進し、児童が学ぶ楽しさや有用感を味わえるようにする。校内研修の一環として教員同士で授業を公開する機会を増やし、授業改善に努める。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2ポイント、算数＋2ポイントであった。国語の漢字の問題で同音異義語の誤答が多かった。算数では、紙を折った場面を想定した図形の問題で正答率が低かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6ポイント、算数＋2ポイントであった。国語では、R4年度と比べて「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」は向上した一方で、「B書くこと」の正答率は低かった。算数では図形に関する記述式の問題において正答率が低かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「児童質問紙」において、R4年度の自校の結果と比較し、「国語の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答は+5ポイント、「算数の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答は＋10ポイントで、向上した。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	①の策に加えて、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用する際には、他学年（下学年）の問題にも取り組むようにさせる。漢字の学年別配当表の活用を意識させ、漢字の定着を図る。算数では具体物の操作を取り入れた指導の充実を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

小3	・国語・算数ともに市の平均をやや下回った。 ・国語では、知識・技能の問題で市の平均を下回った一方で、思考・判断・表現の問題では上回る結果となった。特に前の学年の漢字の定着に課題が見られた。 ・算数では、知識・技能と思考・判断・表現の両方で、市の平均を下回った。特に小数の計算や単位に関する問題の正答率が低かった。	小4	・国語・算数ともに市の平均をやや上回った。 ・国語では、知識・技能と思考・判断・表現の両方で、市の平均を上回った。漢字の問題や書く・話す・聞くことの問題で正答率が7割を超えた。一方で、特に主語と述語の関係を問う問題の正答率が低かった。 ・算数では、知識・技能と思考・判断・表現の両方で、市の平均を上回った。データの活用の問題のみ、市の平均を下回り、無解答率もやや高かった。
小5	・4教科（国語、算数、社会、理科）全てにおいて、市の平均を大きく上回った。 ・国語では、漢字などは定着が見られる一方で、話す・聞くことの問題は他よりも正答率が低かった。算数では「単位量あたりの大きさ」の問題、社会では「日本の位置」を問う問題、理科では小4以前の内容を問う問題で正答率が低かった。	小6	・4教科（国語、算数、社会、理科）全てにおいて、市の平均を大きく上回った。 ・国語では「主語と述語の関係」を問う問題、算数では「変化と関係」の領域の問題、理科では小5以前の内容や小5以前に扱った器具等の名称や扱い方を問う問題で正答率が低かった。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	2学期末のまとめテストの結果で学級平均が8割を超えたのは、1～6年の28学級中、国語は18学級（64%）、算数は18学級（64%）であった。同じく、3～6年の20学級中、社会は20学級（100%）、理科は20学級（100%）であった。また、さいたま市学習状況調査の結果では、知識・技能に関する全校の平均偏差値は前年度比-0.2であった。	B
思考・判断・表現	2学期末のまとめテストの結果で学級平均が8割を超えたのは、1～6年の28学級中、国語は27学級（96%）、算数は18学級（64%）であった。同じく、3～6年の20学級中、社会は16学級（80%）、理科は15学級（75%）であった。また、さいたま市学習状況調査の結果では、思考・判断・表現に関する全校の平均偏差値は前年度比-0.3であった。	B
主体的に学習に取り組む態度	学習状況調査等における各教科の勉強が好きかを問う項目について、全国調査（6年生対象）では、国語と算数の肯定的な回答が前年度比で5ポイント以上向上した。一方で、さいたま市調査（3～6年生対象）では、国語・算数・社会・理科のそれぞれで前年度を0.6～2.6ポイント下回った。今年度は、1人2回の授業公開や研修におけるICT活用の実践報告などの取り組みを通して、授業改善の機会を多く設定することができた。	B

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果とその分析を踏まえ、本校児童の実態を明らかにしたうえで、ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びの実現を通して、知識・技能についてより確実に定着を図るようにする。例えば、前の学年までに学習したことを学び直す機会として、ドリルパーク等を活用したり、レディネステストを実施したりすることを推進していきたい。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果とその分析を踏まえ、本校児童の実態を明らかにしたうえで、ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びの実現を通して、思考・判断・表現する力の確かな習得を図るようにする。例えば、ルーブリックを活用することで、児童一人一人が目標設定や自己評価をして、よりよくするために必要なことは何かを考えながら学習に取り組めるようにしたい。
主体的に学習に取り組む態度	児童が学ぶ楽しさや有用感を味わえるように、「学びのポイント」（じ・しゃ・ク）を活用した授業実践を一層推進する。例えば、「一人一台端末やICT（クラウド）の活用」や「単元計画・課題設定の工夫」、「教師のファシリテートする力の向上」について、校内研修を中心に研究と実践を積み重ねて、学校として一貫性や系統性をもった指導を行っていくようにしたい。